

令和2年度
東部教育事務所管内
地区別人権教育研究協議会
研究発表会

太田市立生品中学校

本日の発表内容

I 研究の概要

- 1 人権教育研究推進事業の趣旨
- 2 これまでの取組

II 生品中学校研究の概要

- 1 研究のテーマ
- 2 研究のねらい
- 3 研究組織
- 4 研究の見通し
- 5 研究の内容

III 具体的な取組

- 1 人権・授業研究班の取組
- 2 小中地域連携班の取組
- 3 実態調査・分析班の取組

IV 成果と課題

I 研究の概要

1 人権教育研究推進事業の趣旨

平成30年度～令和2年度

生品中学校区 「人権教育総合推進地域」の指定

〔調査研究のテーマ(県)〕

一人一人が大切にされ、伸び伸びと生きる児童生徒を育てる
学校、家庭、地域社会の連携の在り方

〔調査研究のテーマ(太田市教育委員会)〕

自他の大切さを認め合える、豊かな人権感覚を身に付けた子どもの育成
～児童生徒の人権感覚を育む、学校・家庭・地域社会の連携を通して～

1 人権教育研究推進事業の趣旨

<調査研究の内容>

- 学校と、家庭や地域社会との双方向での連携の在り方を検討し、充実させること
- 小中学校9年間で、重要課題について重点的・計画的に学習する機会を持つこと
- 教職員の人権感覚を高める研修の機会を設定すること

2 これまでの取組

<家庭・地域と連携した人権教育の推進>

① 「人権教育総合推進会議」の開催

- ・小中の取組を報告し、参加者がそれぞれの立場で協力していくことの確認
- ・人権だよりを家庭へ配布、地域へ回覧
- ・行政センターに人権標語の掲示

② 地域人材の活用

道徳科・総合的な学習の時間 等

③ 地域の同和教育についての研修会

- ・社会教育指導員より授業づくりのアドバイス

＜生品小学校と連携した人権教育の推進＞

① 学校教育部会における、両校の取組についての情報交換

② 9年間を見通した生品地区人権教育全体計画・年間指導計画の作成

③ 小中教職員合同人権研修会の実施

平成30年6月18日(月) 生品中学校にて

「学校における人権教育の推進」

群馬県教育委員会事務局

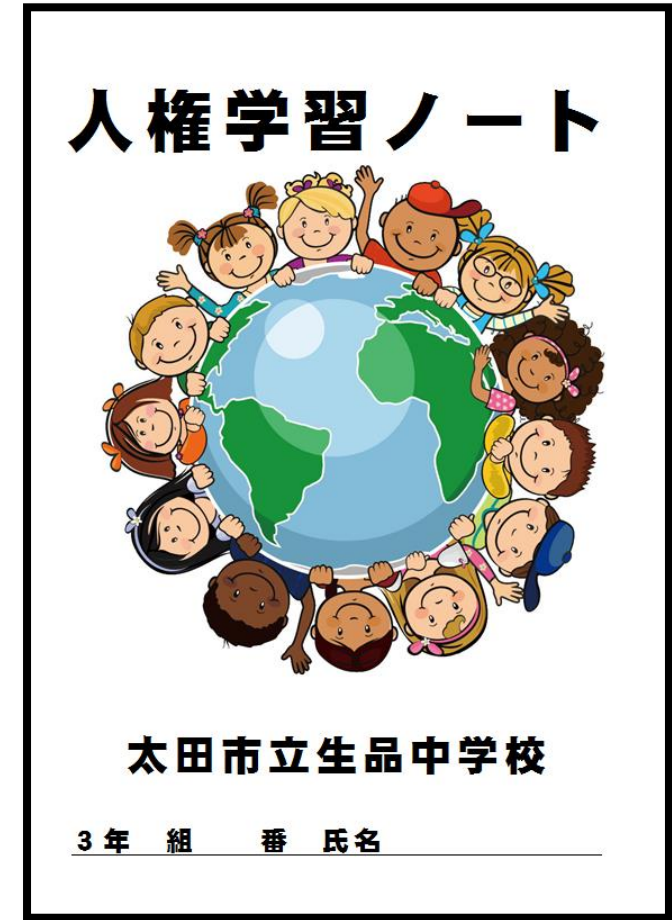
義務教育課人権教育推進係



学校教育部会
(小・中研修主任の話し合い)

＜生品小学校と連携した人権教育の推進＞

- ④ 人権ファイルを活用した「人権ノート」の引き継ぎ
9年間の蓄積



- ⑤ ハイパーQUの結果の共有
(6年生の結果を中学校へ引き継ぐ)

＜人権感覚を高める研修の機会の設定＞

小中教職員合同人権研修会の実施
平成30年6月18日(月) 生品中学校にて
「学校における人権教育の推進」

群馬県教育委員会事務局
義務教育課人権教育推進係

Ⅱ 生品中学校研究の概要

1 研究テーマ

自他の思いや考えを大切にし、
よりよい人間関係を育む生徒の育成

～地域・生徒・学校のつながりのある実践活動を通して～

1 研究テーマ

主題 「自他の思いや考えを大切にし、
よりよい人間関係を育む生徒の育成」

副主題～地域・生徒・学校のつながりのある実践活動を通して～

○「自他の思いや考えを大切に」・・・よりよい自分になろうとすること。

相手の気持ちに共感し、接すること。

○「より良い人間関係を育む」・・・他者の考えのよさに気付くこと。

自分の考えを深めること。

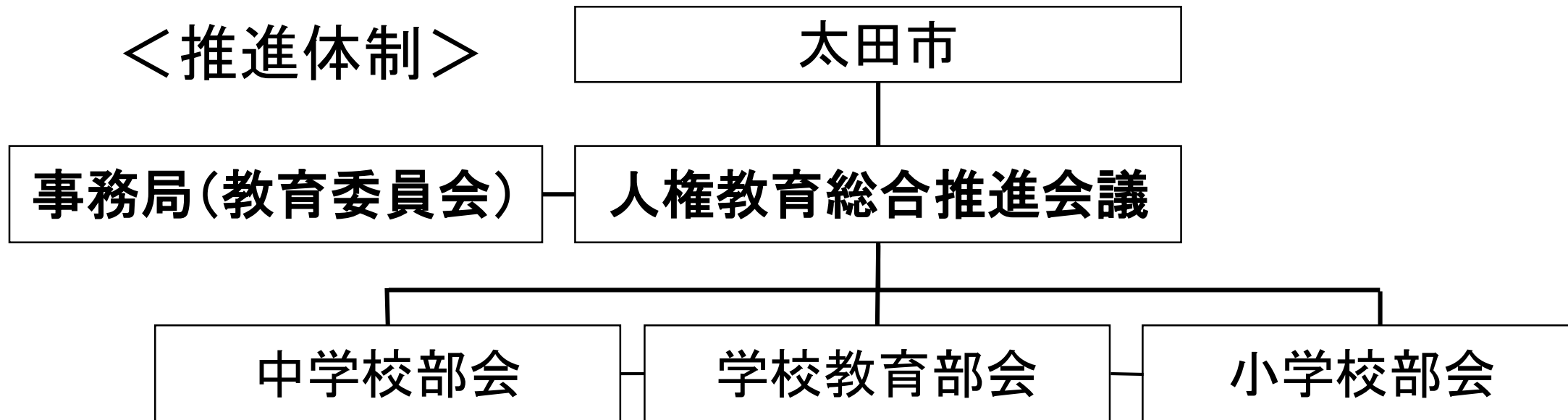
○「地域・生徒・学校のつながりのある実践活動」・・・よりよいクラスづくり・学校づくり・地域づくりをする活動。

2 研究のねらい

小中学校が連携して9年間を見通した指導計画の整備を行い、人権教育を実践することが、自他の思いや考えを大切にし、よりよい人間関係を育む生徒の育成につながることを、実践を通してあきらかにする。

3 研究組織

＜推進体制＞



＜人権教育総合推進会議の構成＞

生品地区区長会(青健推)会長
生品行政センター所長
特別養護老人ホーム愛の里にたつた施設長
太田市人権教育推進協議会委員
太田市生涯学習課長
生品中学校長
生品小学校長

生品中PTA会長
生品小PTA会長
生品中学校 学校評議委員
生品小学校 学校評議委員
生品幼稚園 園長
生品保育園 園長
太田市学校教育課長

3 研究組織（中学校部会）



4 研究の見通し

小中学校が連携し、9年間を見通した指導計画の整備を行い、重要課題の取扱について話し合い、人権教育を実践することで、自他の思いや考えを大切にし、よりよい人間関係を育む生徒の育成ができるであろう

5 研究の内容

(1) 人権教育の実現に向けて・・・常時指導・間接的指導・直接的指導の確認

◎常時指導・直接的指導の充実

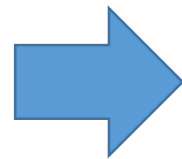
(2) 既存の学習規律の確認

(3) 各班の取組

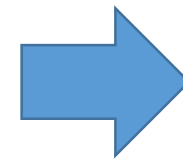
①「人権・授業研究班」 ②「小中地域連携班」 ③「実態調査・分析班」

(4) 学習活動の実践

平成30年度(1年目)
道徳
対話的・話し合い
の推進



令和元年度(2年目)
道徳
評価の工夫の充実



令和2年度(3年目)
道徳
交流活動・話し合いの
充実

Ⅲ 具体的な取組

人権・授業研究班

- 常時指導の充実
 - ・適切な言語環境
- 学習規律の確認
 - ・学習の手引きの作成
- 道徳の授業の充実
 - ・年間指導計画の見直し
 - ・道徳の授業づくり
 - ・道徳の評価の工夫

実態調査・分析班

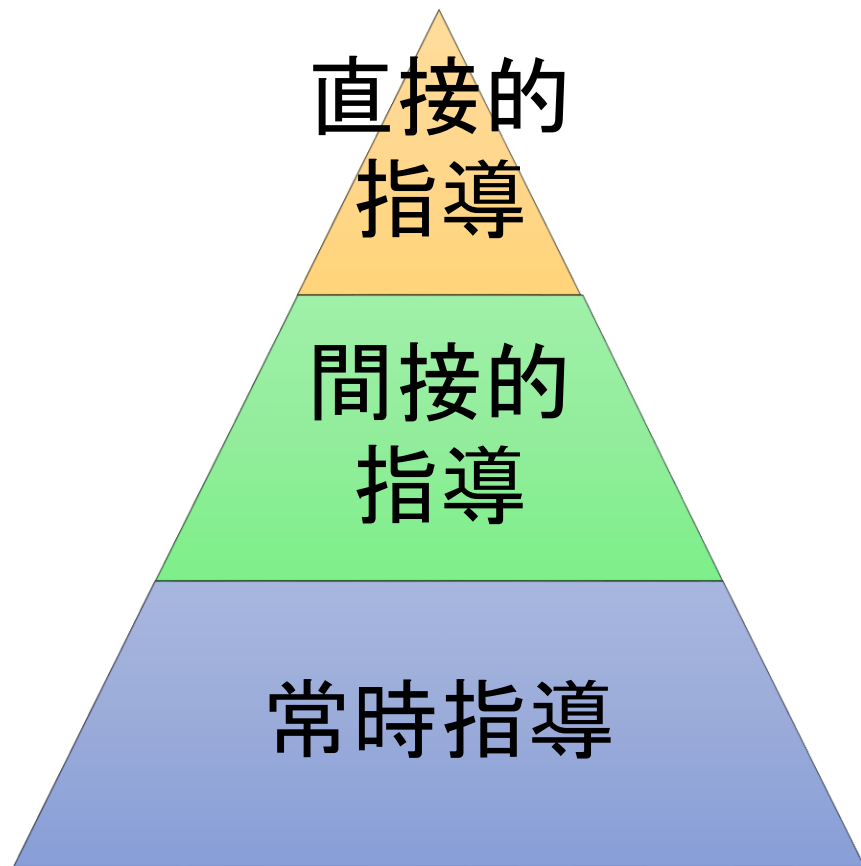
- 人権コーナーの掲示
- 振り返り活動の充実
 - ・人権講演会の振り返りの全生徒の掲示
- 各種調査・分析
 - ・生徒の人権意識調査
 - ・教師の人権意識調査
 - hyper-QUテスト（1,2年生）
 - C&Sテスト（3年生）

小中地域連携班

- 人権教育の啓発に関わる行事
- 小学校との交流活動
- 地域との交流活動
 - ・地域と連携した活動
 - ・教育活動の取組の発信

1 人権・授業研究班

① 人権教育の充実に向けて



◎ 直接的指導・・・11の重要課題
5つの能力・態度

9年間を見通した生品地区人権全体計画・年間指導計画の作成

○ 間接的指導・・・各教科領域の内容と人権教育の目標を内容との関連を意識

◎ 常時指導

(生徒が学校で過ごすすべての時間において、お互いを大切にする指導)

- ・ 日常の学級経営
- ・ 生徒指導
- ・ 給食
- ・ 清掃
- ・ 休み時間

○常時指導の充実

「児童生徒が学校で過ごすすべての時間において、
お互いを大切にする指導を行い、
児童生徒一人一人のよさが認められ、
ともに生きているという実感がもてるようにする。」

- 教室環境や言語環境の整備→掲示物の整備・呼名の統一
- 温かい雰囲気づくり→手作りの学級目標
- 教師は人権感覚を高め、人権尊重の態度で生徒に接する。
→定期的な「人権感覚チェックリスト」の使用

②既存の学習規律の確認(生品中スタンダード)

人権を意識した授業の実施

- ①時間が守られる(授業も、休み時間も、清掃も…)
- ②学習中のルール of 徹底
(友達の発表を最後まで聞く、間違いを否定しない)
- ③学習用具が揃う(必要に応じて家庭と連携)
- ④「めあて」を提示した見通しのもてる授業
- ⑤言語環境を整える(教員と生徒ともに)
- ⑥生徒の方をしっかりと向いて話し、表情を観察しながら授業を進める
- ⑦意識的に褒める、叱るときには伝わるようにしっかりと叱る
- ⑧「協力」「参加」「体験」などを取り入れた活動時間の確保
- ⑨生徒が話したくなる場を意図的につくる
- ⑩学習課題の選択、教材・教具の選択
- ⑪常時指導、間接的指導、直接的指導の実施

③授業の流れ

授業の流れ	具体的な支援 予想される児童生徒の反応例
学習への意欲を高める めあて 追求すべき事柄を明確にする 課題	○課題に対して自分の考えを決定させる場を設定する。 (これまでの学習や生活経験に基づく予想や見通し) ・たぶん、こうだと思う。 ・こんなふうを考えられそう。
ペアやグループや 全体などの話し合 いの形式を工夫 相手の考えを肯定的 に受け止める態度	○考えを出し合う、共有するための支援を工夫する。 ・私の考えは□□です。 ・私は△△と思います。 ○自分の考えと相手の考えを比較し、良さを 見つける支援を工夫する。 ・そんな考えもあるのかな。 ・その考えいいな。
学習の成果を整理する まとめ 日常生活につなげる 振り返り	○学習活動を受けての自分の考えを 選択・決 定する場を設定する。 ・この考えなら良さそうだ。 ・この考えなら納得できる。 ・やっぱり私の考えは▽▽だ。

人権尊重の3視点 自己有用感を高めるために

◆【自己存在感】を持た
せる支援
自分の考えを書いたり話したり
して、みんなの前に示す支援の
工夫がある。

◆【共感的関係】を育成
する支援
友だちの発言の良さに気付くと共に、
互いの考えを交流し、互いの良さに学
び合う場の工夫がある。

◆【自己選択・決定】の
場の設定
自分の考えを持たせる場の工夫。
また学習成果のまとめ方を自分で
選択・決定できる場の工夫がある。

④生品中スタンダードに基づいた授業づくり

道徳

・「道徳のキセキ」をクラスごとに掲示し、
第〇回道徳 を貼る。

・「テーマ」「めあて」「振り返り」のカードを掲示し、授業の流れを視覚的に理解できるようにする。

・中心発問に対する自分や他者の考えを深めさせるための教師の意図的な問い返し発問を工夫する。

・道徳教育推進委員・学力向上コーディネーターによる学年を越えての道徳授業への参加・参観・情報交換をする。

・「道徳ファイル」を用いてワークシートを蓄積し、道徳の評価につなげる。



⑤道徳の授業づくり(交流の工夫)

話し合い活動の充実



人権教育の観点から

- ・他者の考えの良さに気付かせ、
自分の考えを深めさせる
 - ・相手の思いや考えに共感する
力を育む
- 生品中スタンダードの活用

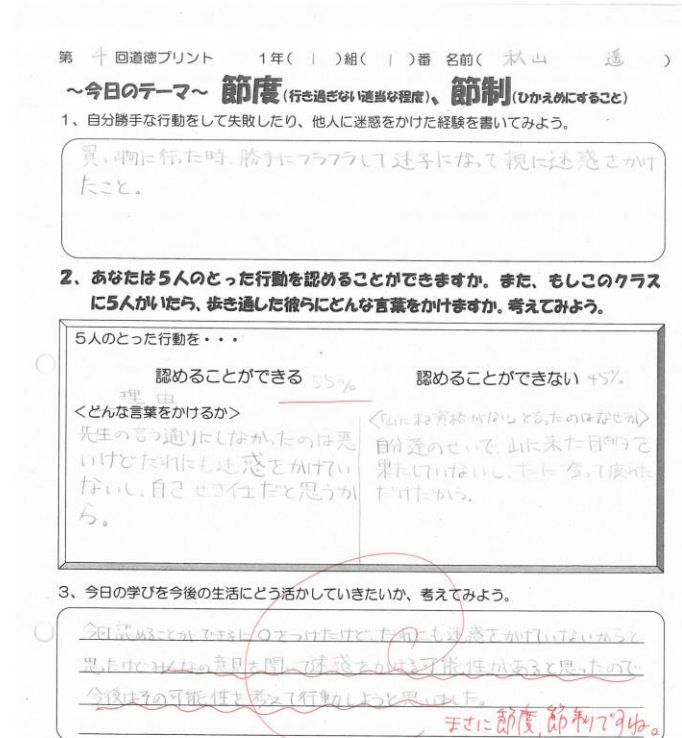
⑥道徳の授業づくり(指導体制について)

・教員研修(メンター研修)



・ローテーション道徳の実施

・教師のワークシートへのコメントの書き込み



発言できなかったところも見取ることができ、評価へもつながる。生徒の意見を肯定的に捉える。

2 実態調査・分析班

① 人権コーナーの掲示の充実



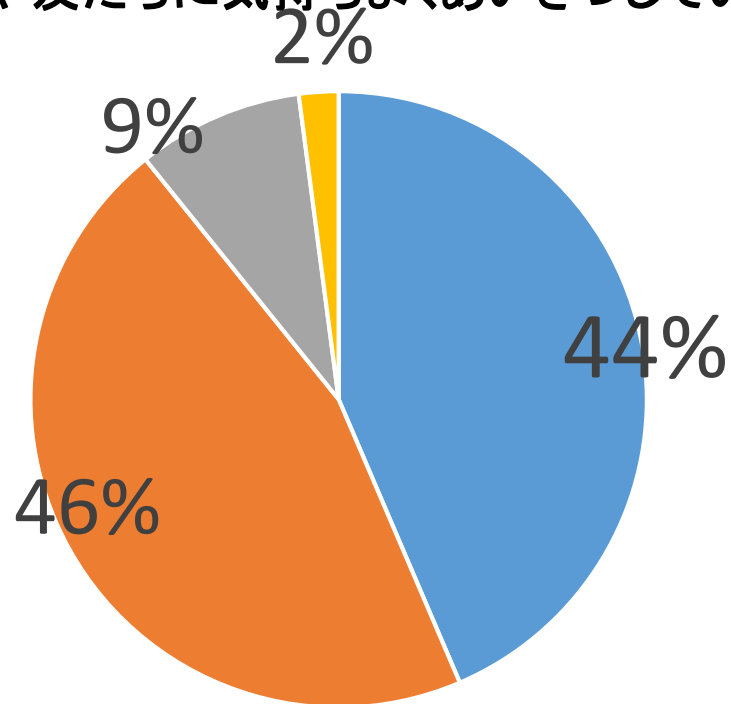
②振り返り活動の充実(行事の掲示)



③ 各種調査・分析

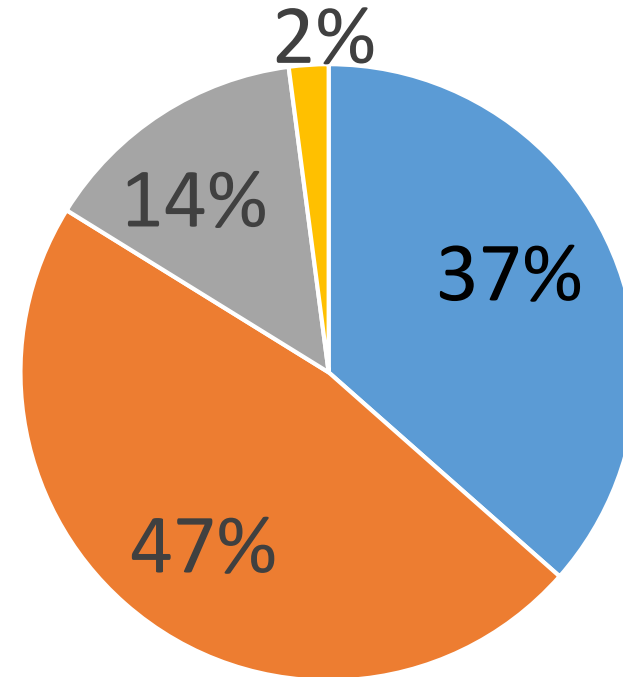
○ 生徒の人権意識調査（実施日令和元年12月）

先生や友だちに気持ちよくあいさつしている



- とてもよくあてはまる
- 少しあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

人を傷つける言葉を使わないで接している

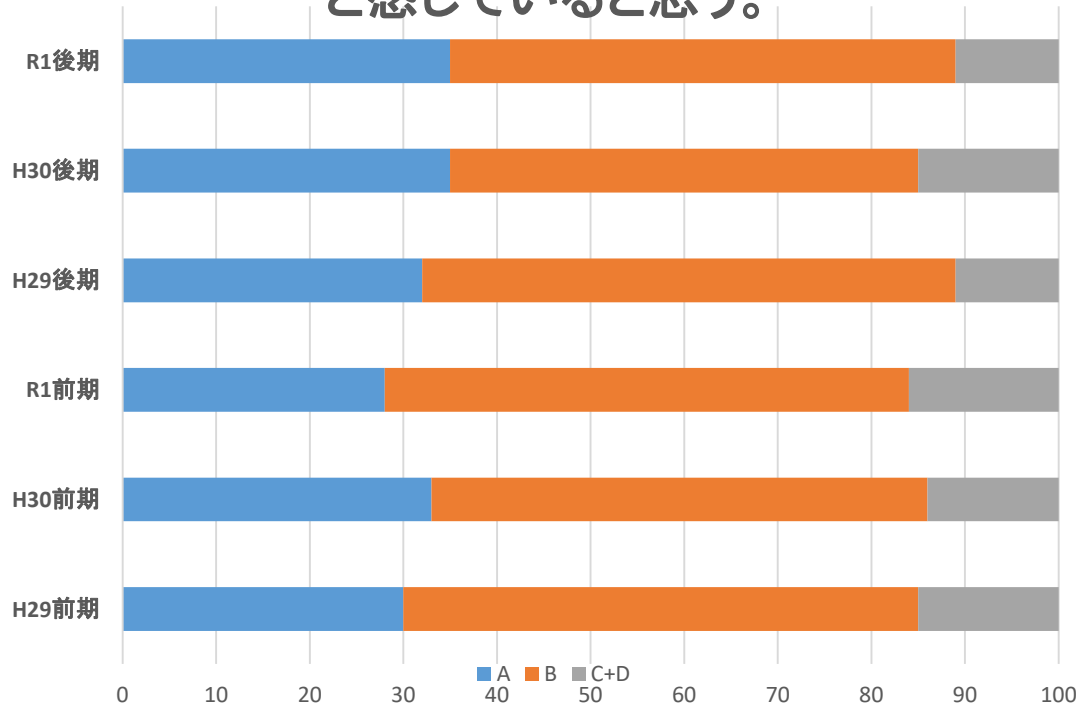


- とてもよくあてはまる
- 少しあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

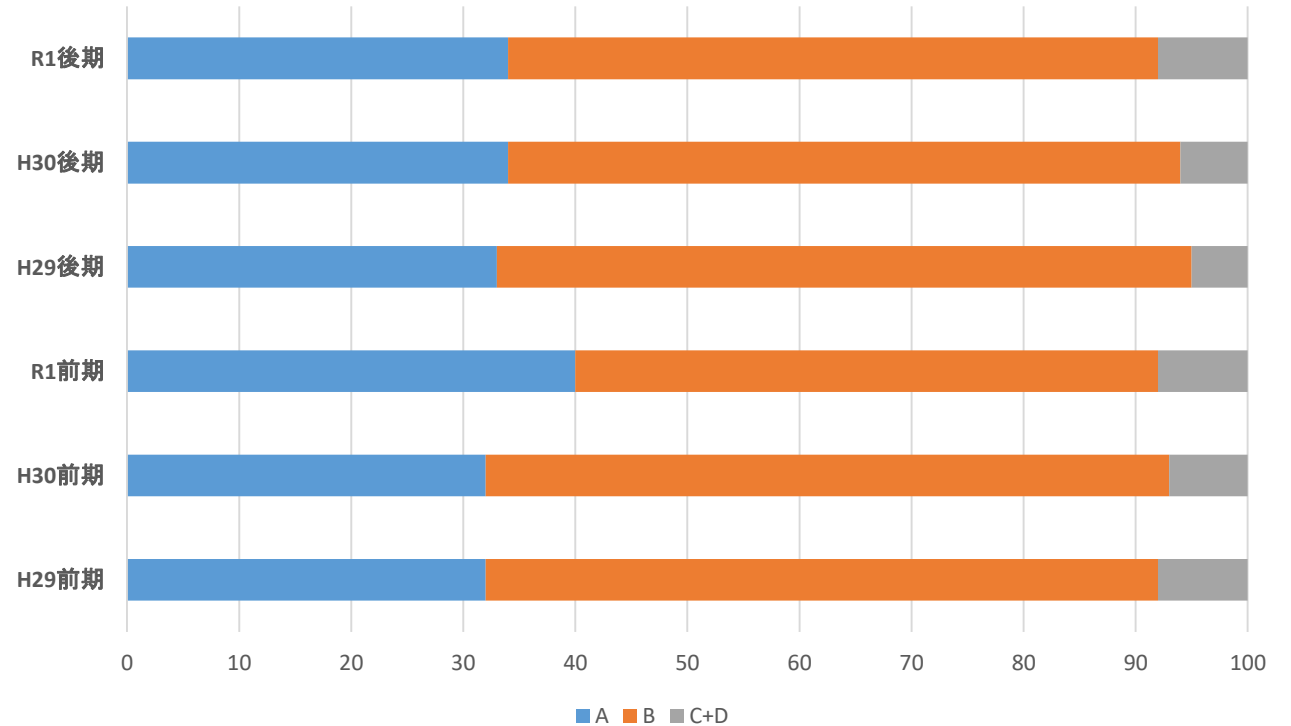
③各種調査・分析

○学校評価アンケート(豊かな心)(実施日平成29・30年6月・12月) 保護者回答

お子さんは、「学校は楽しいところ」
と感じていると思う。



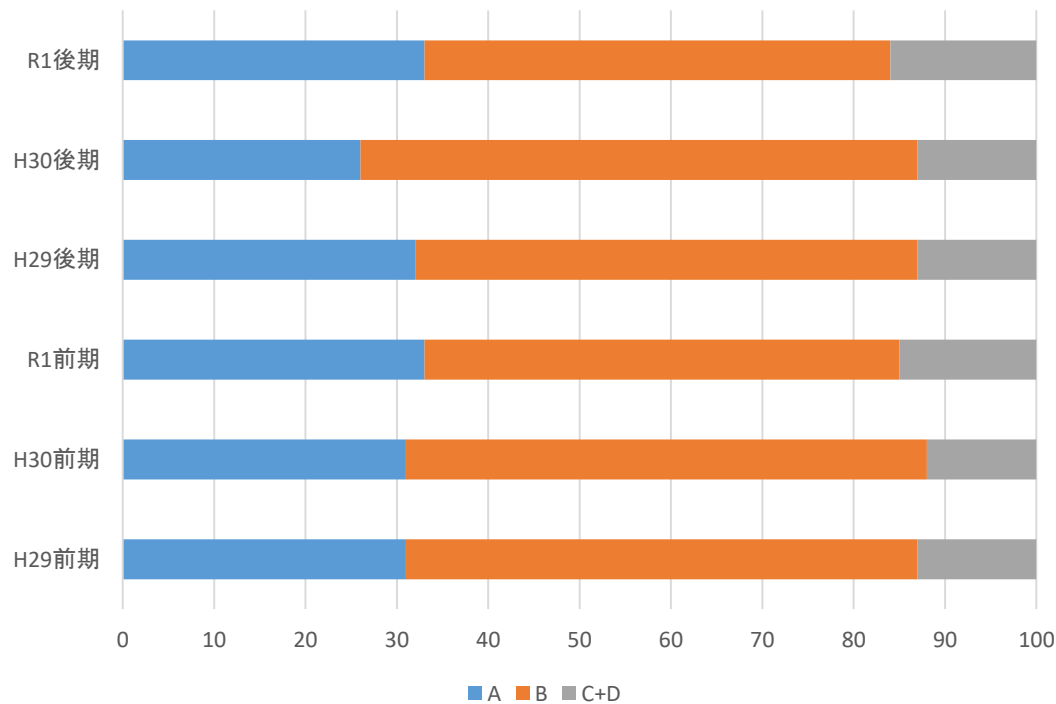
お子さんは、人に迷惑をかけないように
心がけている。



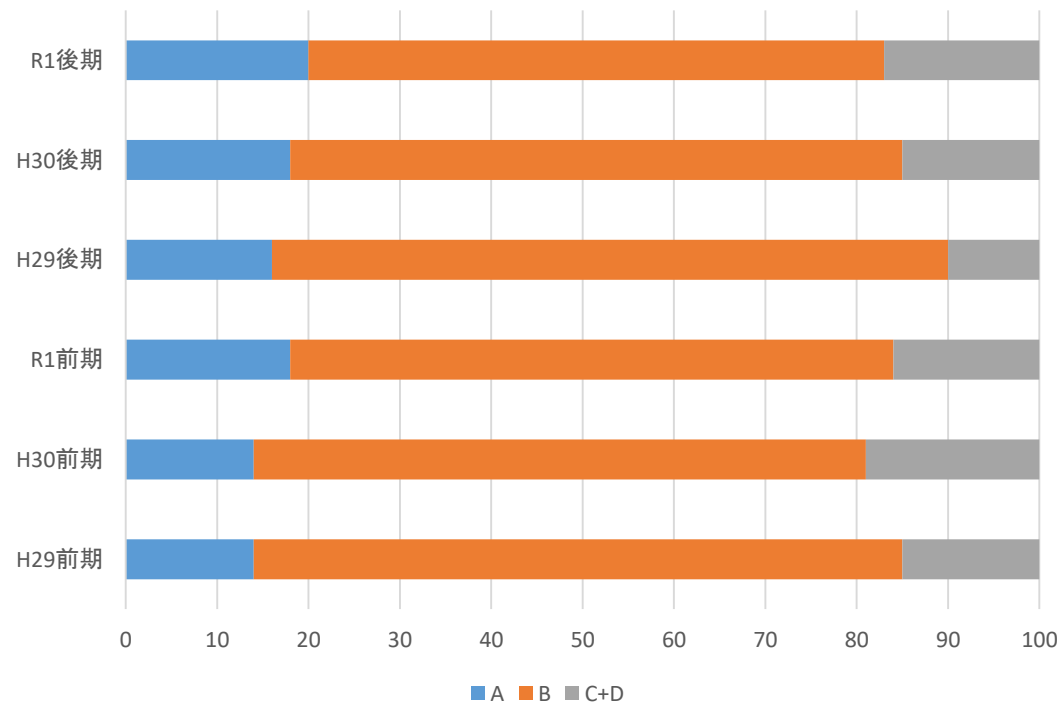
③各種調査・分析

○学校評価アンケート(豊かな心)(実施日平成29・30・31年6月・12月) 保護者の回答

お子さんは、家庭や地域社会の中で
進んであいさつをしている。



学校は、生徒の悩みやいじめの解消
に努めていると思う。



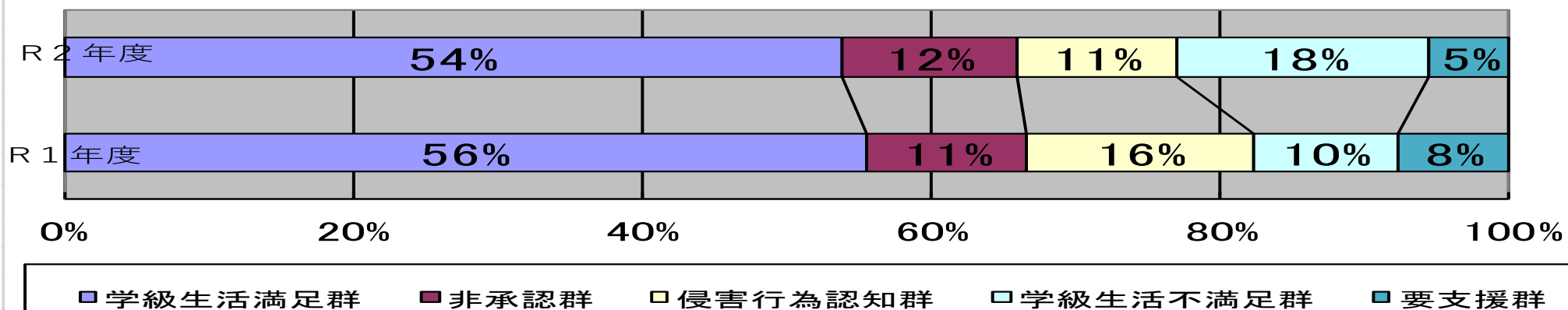
④各種調査・分析、その他研修等

○hyper Q-Uテスト、C&Sテスト(実施日令和元年6月・12月 令和2年7月)

QUデータ比較(2019年度、2020年度実施)

2年	R1.6月	R1.12月	R2.7月	増(↑)減(↓)
学級生活満足群	56%	59%	54%	↓
非承認群	11%	8%	12%	↑
侵害行為認知群	16%	19%	11%	↓
学級生活不満足群(要支援群)	18%(8%)	14%(4%)	23%(5%)	↑

生品中アンケート: 年度をまたいだ分析



④ 各種調査・分析、その他研修等

○ 教師の人権意識向上研修(メンター研修)

・ 学期ごとの「人権感覚自己チェック表(教師用)」

定期的なチェックは、日ごろの何気ない教師の取り組みの大切な振り返りとして、とても有効です。

・ 授業づくり「問い返し発問の工夫」

・ 生徒の意見の取り扱い方(意見を肯定的に捉える)

人権感覚自己チェック表(教師用)

日ごろの人権教育への取り組みを点検、評価するためのチェック表です。各学校の実情に応じて学期ごとに活用し、教師の人権感覚を磨きましょう。(学期に1回は、チェックしてみましょう!)

学校生活	チェック項目	日付	7/31	/	/
始業前 健康観察	どの子どもにも同じように明るい挨拶をしていますか。		<input type="radio"/>		
	挨拶する子どもの声の調子や表情の変化に注意していますか。		<input type="radio"/>		
	不調を訴える子どもの言葉をきちんと受け止めていますか。		<input type="radio"/>		
授業中	欠席した子どもをクラスの子どもが意識できるようにしていますか。		<input type="radio"/>		
	子どもが安心して考えを発言できる雰囲気をつくっていますか。		<input type="radio"/>		
	子どもによって呼名の仕方が違いますか。		<input type="radio"/>		
	どの子どもにも発表の機会を与えていますか。		<input type="radio"/>		
	子どもが不快に思うような冗談や皮肉を言っていませんか。		<input type="radio"/>		
	子どもの発言や意見を、まず受け止めて対応していますか。		<input type="radio"/>		
	できる子、できない子と先入観をもって接していませんか。		<input type="radio"/>		
	一人の子どもの大勢の前で叱っていませんか。		<input type="radio"/>		
休み時間	間違いや失敗を嘲笑する子どもを見逃していませんか。		<input type="radio"/>		
	子どもの訴えに耳を傾け、すぐ対応していますか。		<input type="radio"/>		
	積極的に子どもと遊んだり話したりしていますか。		<input type="radio"/>		
	一人でぼつんとしている子どもに声をかけていますか。		<input type="radio"/>		
給食 清掃	子ども同士の問題を見逃していませんか。		<input type="radio"/>		
	好き嫌い等に対する正しい指導を心がけていますか。		<input type="radio"/>		
	子どもたちと会話を楽しみながら食事をしていますか。		<input type="radio"/>		
	準備や片づけの時、特定の子どもに偏った仕事がありませんか。		<input type="radio"/>		
その他	他のクラスの子どもにも同様に指導をしていますか。		<input type="radio"/>		
	職員間で何でも話し合える雰囲気がありますか。		<input type="radio"/>		
	どんな理由があっても、体罰はしていませんか。		<input type="radio"/>		
	いじめは絶対に許さないという強い姿勢をもっていませんか。		<input type="radio"/>		
	問題行動の責任を家庭や地域社会等に押しつけていませんか。		<input type="radio"/>		
	個人情報の取り扱いには十分に配慮していますか。		<input type="radio"/>		
子どもには命の大切さを教えていますか。		<input type="radio"/>			

3 小中地域連携班

①ファミリートークの実施

生品小

ファミリートークの実施

保健集会:「いのちのローソク」
保健委員会の発表を聞いた感想
《3年生》

ほけん委員の人たちのげきを見て、生活の中で大切なことを知りました。

1つ目は「いじめをしない」、2つ目は「いじめをされたら、やめてと言う」、3つ目は「いじめを見たのに、見てないふりをしない」ことが一番大事なことで知りました。自分や友だちのローソクの火をきれいな色にするために、いじめたりいじめられている人がいたら注意します。



命の大切さについてのファミリートーク

ファミリートーク:「こころの健康について」
家族との話し合いの感想
《保護者》

いじめはしてはいけません。自分はいじめていないつもりでも、された人は死を考えるくらい心が傷ついていると思いました。息子に対しても一方的に怒ることがあり、私も相手のこと(息子のこと)を考えながら、話をしたり、注意をしたり、愛を持って接していきたいです。大人も相手の気持ちを考えるって大変だな、相手のことを考えるという気持ちを考える良い機会になり、トークをして良かったです。



生品中

ファミリートークの実施

保健集会：「こころの健康
ストレスと上手につきあおう」
保健委員会の発表を聞いた感想
《1年生》

よいストレスを感じたとき
そのことから逃げずに原
点にかえり、どうしたらよ
いか考え行動する。

「成長のチャンス」と捉える。

悪いストレスを感じたとき、ひとりで抱え
込まない、人に話すことによって視点を変
えられる。リセットするための方法、自分な
りの方法をもつ。自分に逃げ道を与えるこ
とが大事だと知った。



心の健康についてのファミリートーク

保健集会：「こころの健康
ストレスと上手につきあおう」
お家の方からの感想
《保護者》

こころの健康は、自己肯定を高めること
で保つことができる。「自分のことが好き
か？」と話合いの中で質問した。何かがず
ば抜けてできるから好きとか、かわいいか
ら好き、とかではなく、できない自分も、外
見にコンプレックスがある自分も認めて、そ
れでも自分が大切だと自分自身を大事に
思えることが、こころの健康を守ることにつ
ながると話し合いました。嫌なことがあつて
も、乗り越えていくには、自己肯定感が必
要だと思う。子どもたちはみんな、その自
己肯定感を持てると感じられる話合いに
なった。

②人権教育の啓発に関わる行事

○人権講演会(毎年12月)

○人権週間(毎年12月初め)



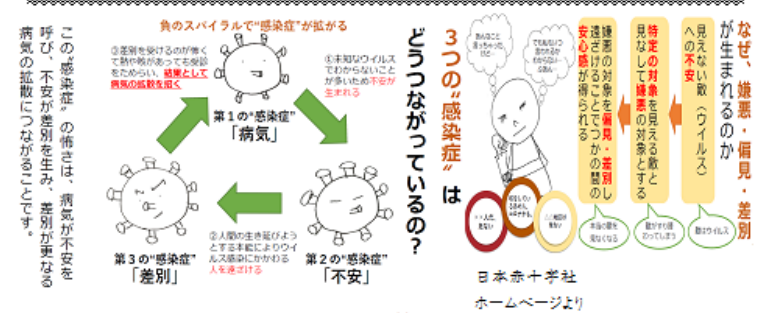
③ 啓発ポスターや人権だよりの作成



人権教育 情報局 2020	いしくしな ホッとライン	木田市立生品中学校 学校通信 9月 第3号 人権教育部
---------------------	-------------------------	--------------------------------------

毎日、東京都をはじめ、全国のコロナ感染者数が報道されています。感染者増で、不安は再び高まっています。学校では、授業や部活などが少しずつ通常に戻りつつある中、一人でも感染者が出れば、すべての予定がキャンセルされ、授業も部活も楽しみにしていた行事も再び止まるかもしれません。その感染者が自分だとしたら…。想像するだけでも怖くなります。どれほど、みんなに愛められるでしょうか。「さっといじめられるに違いない」—そう子どもたちが不安がるのも当然です。

引用: yahoo news japan 梶井真実(新潟看護大学大学院臨床心理学研究科教授、スクールカウンセラー1527 名) 実際にいじめが起きることを防がなくてはなりませんが、不安がっている子がいること自体が、問題です。生品中でも、生徒たちの様子を観察し、不安を持つ子に対して教育相談の機会を設けたり、心ない言葉を発することがないように促したり、正しい情報の美しさを学ぶことで正しい判断ができるよう支援したりしています。地域と家庭、学校が協力し合い、コロナいじめが起こらないようにしていきます。



第3の「感染症」を ふせぐために

不安を煽ることは病気に対する偏見や差別を強めます。

「確かな情報」を拡めましょう。

・ 差別的な自動に同意しないよう「いいえ」と断りましょう。

「価値もない」情報 見極めるポイント

か 書いた人は誰か
ち 違う情報と比べたか
も 元ネタ(根拠)は何か
な 何のために書かれたか
い いつの情報か

※聖路加国際大の中山和弘教授による

④人権教育総合推進会議



⑤生徒会活動

○あいさつ運動



○ポスター配付



IV 成果と課題

○成果

- 教職員、生徒の人権意識が高まるにつれ、自他の大切さを認め合える集団が醸成され、豊かな人権感覚を身に付けた子どもが育っている。
- 今までいじめとみなさなかったものも、教師がいじめと認知し、積極的に関わり指導する等、人権意識が高まってきた。
- 地域社会と保護者にも人権についての情報交換を行うことで、育てたい生徒像を共有することができ、同じ目標を持って指導・支援をすることができた。地域でさわやかな挨拶が飛び交い、心温かで優しい生徒が増えた。

●課題

- 人権教育は特別なことをするのではなく、日常的な常時指導の積み重ねが大きく反映されていくものである。今後も地域と連携したり、長期的持続的なものになるような行事や授業の工夫をしたりしていく必要がある。



ご静聴

ありがとうございました